

後期高齢者医療制度に怒る道民の会

ニュース No.22

2008年
10月15日

事務局：北海道社保協
電話011-758-2648 FAX011-758-4666

10.15「怒りの年金支給日」 昼休み座り込み・宣伝署名行動に 150人が参加

今日15日、年金支給日、全道で札幌9行政区31市町村で「怒りの宣伝・署名行動」が展開されました。札幌では、昼休み座り込み・宣伝署名が大通西3丁目でおこなわれ、150人が参加しました。座り込みでは、北海道弁の「やめれ！」の赤文字ポスターが掲げられ、道行く市民の注目を浴びました。テーブルの署名には、多くの市民が立ち寄り、40分余りで約120筆が集まりました。

活発なレトーク



リトークでは、「道民の会」の渡部代表が主催者を代表して、この間のたたかひの前進に確信をもち、「後期高齢者医療制度を廃止する国会をつくろう」とよびかけました。つづいて、不服審査請求をおこなった請求人3人（うち障害者1人）から、「憲法違反の制度との訴えを棄却した裁決への怒り」が述べられ、「80才すぎたけど、廃止までたたかひ続ける」（本間コトさん）の訴えに、大きな拍手がおきました。

社保協副会長の大橋晃先生が診療後すぐにつけ、「『長生きしてごめんなさい』母が言う、こんな日本に誰がした。後期高齢者医療制度は廃止すべきです」という保団連ポスターを紹介し、運動が広がっていることを強調しました。



「やめれ！」のパフォーマンスが 圧巻でした。



高齢期運動の岩本さんの「後期高齢者医療制度はやめれ！」の音頭に、座り込み参加者が「やめれ！」ポスターを掲げ一斉に唱和したパフォーマンスは圧巻でした。

道生連の三浦会長は、65才からの国保保険料年金天引き問題に触れ「生活できないと悲痛な叫びが起きている」と訴えました。道労連名知議長から連帯の挨拶があり、

り、「民主党は後期高齢者医療制度の存続を盛り込んだ補正予算に賛成した。運動と世論の力こそ廃止に追い込む力だ。総選挙の大きな争点にしてたたかおう」と激励と決意をのべました。

保団連高齢者川柳 ●「孝行は するなと国が 子に教え」●「この命 松竹梅（まつたけうめ）終末期」
●「七十五 金と命の 分岐点」●「姥捨ての 入山料を 引き落とし」●「皆保険 支えた高齢 邪魔になり」
●「孝行は するなと国が この教え」●「廃止して 変える医療の 風通し」